

新宮山彦ぐるーぷ第1918回
持経宿・平治宿の巡回整備作業

◇実施日：2017年03月12日(日) 晴

◇参加者：川島 功、橋本 梓、児嶋道夫、濱野兼吉、榎本康夫、梶野照雄、青木宏充(1泊2日)。 7名。

前日に持経宿に宿泊予定だった青木さんから「ゲートから2.5km付近に大きな落石があり1人では動かせず、持経小屋まで行けず池原スポーツ公園に戻った、道具持参」の連絡があり、ボールやスコップを用意して出発。

午前8時過ぎ池原スポーツ公園に到着。青木さんと榎本さんと3人で新宮組の到着を待った。4名乗車の川島車が8時半に到着後、川島車と青木車に分乗して持経宿へ向かった。



池郷林道落石除去作業

林道ゲート迄は、前日に青木さんが大きな落石を除去してくれていたもので、いつもと同じように進めたが、ゲートを過ぎると山側から崩れ落ちている落石箇所が次々と現れ、除去しながら進む。

前日に青木さんが引き返した地点で、ボールを使って氷結している石を動かしたが、後続の川島車が現れない「パンクじゃないか？」と話していたら案の定、右後輪が緊急タイヤに変わった川島車が合流。これから7名で落石除去が始まった。



緊急用タイヤで

持経宿三叉路まで作業は続く

持経宿の水場

持経宿までに落石除去した箇所は20カ所ほど、池原から持経宿まで2時間かかった。

持経宿到着後、内側に鍵の無かったトイレのドアに掛け金を取付け。川島さん達は、雨水槽に栓をして貯水及び正月飾り撤収と程なく彼岸を迎えるため不動堂のお供え替えをして平治宿へ。

青木さんは、水場の整備に。(水場までの林道も落石が多くて、除去しながら20分かかったそうだ)

掛け金の取付けを終えて平治宿へ向かった。途中千年檜祠でお供え物を交換し、その南のピークで先行の5名に追いついた。

中又尾根分岐手前のピークの登りで、腐朽倒木をチェーンソー処理し、12時過ぎに平治宿に到着。

すぐに昼食にする。残存のポリタンの水は全て氷っている、持参のお湯を沸かしカップラーメン・コーヒーをいれる。日陰に残

雪あるも、風もなく日差しもあつて屋外でも寒さは感じない。



ドア内側に掛け金



腐朽倒木を切除



小屋前で昼食中

朝食を早々に終え、榎本・梶野は水場確認に降りる。水場まで降りてビツクリ、前面氷結している。氷の厚さは6cm、沢の上部まで凍っている。常に水流があったことがうかがえる。貯水槽を覆っている氷の端を石で割り、水汲みができるようにした。



氷結した平治宿の水場

川島・濱野氏は雨水槽設置、橋本氏は玄関ポーチ柱の防腐剤塗布、児嶋氏はストーブ内筒周りのパライト断熱材を一旦出して耐火セメントと練り、断熱耐火セメント詰め作業に分かれて作業をする。平治小屋に戻ると、トイレの雨水槽ドラム缶は元通りに置かれ、ストーブが表に出されて、断熱材の交換作業が行われていた。また、屋外柱の腐食防止のため防腐剤の塗布をされていた。



ドラム缶も元通りに



ストーブ断熱材の入れ替え



木材防腐剤の塗布



チェーンソーで薪作り



平治宿班



まだ白い積ヶ岳

チェーンソーで集められていた小径木を切断して薪作りをする。ストーブの補修が終って、小屋内に戻されたストーブに氷結防止を兼ねて試し炊きし、正月飾りの撤収とゴミを片付けて作業が終了し、13時40分持経宿に向けて出発。

途中、中又尾根分岐を過ぎた地点で一カ所だけ視界が開けた場所があり、白くなつた釈迦ヶ岳、孔雀岳、仏生嶽が良く見渡せた。振り返ると梢越に、転法輪岳北面にも残雪が所々残っている。千年檜祠で勤行、持経宿までの間の道に飛び出していたアセビなどの小枝が刈り払われて、林道へ降りる階段部分もきれいに掘り出されていた。

午後2時40分に持経宿到着。聞けば青木さんが千年檜までを整備してくれたようで、普段やらない作業で、手にマメができたそう。

トイレに便座シートを付け、不動堂で勤行。

コジマカフェが開店、榎本氏等の菓子の差し入れがあり小休止後、持経宿を後にした。



便座シートの取付け

本日の参加者

川島車は緊急タイヤのため先行してもらおうが、朝、除去したはず

の落石が数か所で見られ、何カ所かで車を降りて除去し、何とか無事に池原に到着した。

尚、持経宿・平治宿には、コーヒー瓶4本（もはらクリニック寄贈）とガスカートリッジ（3本）を補充した。

行動タイム

8:10池原8:40→10:40持経宿11:00→12:05平治宿13:40→14:40持経宿15:00→15:50池原スポーツ公園(16:00解散)

(記：梶野)